

製本のススメ

Vol. 111

今年も熱中症に注意しましょうという季節になりました。ホント日々暑いです留守になっている部屋の室温を気にしたことがありますか？植木なども、暑すぎではダメになってしまいますし、ペットがいれば(たとえ亀でも)水温や室温は十分に管理しましょう。

今回は**今さら聞けない話**の話し

もう当たり前すぎて、誰も教えてくれないって事柄ありますね。或いは「これが普通」って思い込んでいる(信じている)事柄もありますね。それが思わぬ事故を生んだという経験の方はいませんか？今回はアジロと無線について、おさらいしましょう。アジロ綴りも無線綴りも、出来上がるとその違いは判りませんが、**製版の時点から加工の仕方は少々違います。**

そもそも本は糸綴りでした。その堅牢さは皆さんご承知の通りです。それを簡略化したものが『**アジロ綴り**』です。綴り程ではありませんが、紙質によって(書籍用紙や上質系)は綴りに匹敵する丈夫さがあります。これは折加工の際に、**アジロと呼ばれる切り込み**を入れながら折ることで、接着剤の効果を上げています。また切り込みを入れているだけなので、**折丁自体がバラバラにならず 強度アップ**に一役かっています

さて、折にならない1枚もの(ペラ)は？という、ホチキスのように針金で綴じていましたが、ホットメルト剤の登場により針金無しに変わりました。これが『**無線綴り**』です。**基本的に無線綴りでは背を(機械的に)カッターでジグザグに切ります。**接着剤の効果を上げる為ですが、ここでお気づきの方もいるでしょう！？**アジロ綴りでは、本の背中を切りませんが、無線綴りではカットします。**当然 カット分を付けておかねばなりませんね。つまり冊子を作るときには企画段階から製本加工をイメージしておかないと失敗の素になるというわけです。

昨今 印刷界も変わり少数はペラ丁合が主流になりつつあります、製本加工も変わってきました。その為ペラの喉側に余白(ドブ)をつけるという感覚も薄れていますが本文の一部を外注印刷する際には、上記の事柄を確認し自社と印刷のルールが違う場合には加工会社へ連絡してください(必須！)



Tea break

製氷皿の氷は真中が膨らんでいますね、水は氷になると10%程膨張し体積が増えます。器が固いので結果的に中央が盛り上がるのです。さて液体が固体になるときは体積が小さくなるのが普通ですが、水は固まると体積が増えてしまう例外の物質だそう。グラスを片手にちょっと蘊蓄を語りたくなりますね。

by (株) 井関製本